

ふるさとを語る

日本の縮図と言われる兵庫県は、多彩な人材を輩出しています。今回は、産経新聞社 上席論説委員の乾 正人さんに、お話を伺いました。



産経新聞上席論説委員兼特別記者兼コラムニスト

乾いぬい 正人まさひと さん

■神戸の思い出

〜酒屋で育んだ記者の目〜

生まれは神戸市兵庫区。高校時代までを神戸で過ごしました。高校生の頃まで、五宮町にある親戚の酒屋で、お盆や暮れの忙しい時期に手伝いをしていました。当時はスーパーでお酒をあまり扱わない時代で、大抵の場合、酒屋から各家庭へお酒を届けていたので、お盆や正月前の時期はすごく忙しかったです。それはもう嫌々やらされていきました。配達途中に同級生に出くわすのが恥ずかしくてね。でも、これが大変勉強になったんですよ。

昔は、ビール瓶でも酒瓶でも瓶を回収していましたよね。勝手口にまわると、すぐ立派な家に住んでいても瓶を洗わずにほったらかしにしている所

とか、それほど裕福そうでない家庭でも、ちゃんと綺麗に返してくれるとか。表玄関から見えないところに真実があるというのを知りましたね。

神戸の酒屋には、大体一杯軽く飲めるカウンターがあるので、当時は港が栄えていたので、多くの労働者が飲みに来ていました。

配達の合間に、お店に来る酔客をながめて「何で大人は無駄なお酒を飲んで、くだらない話をして、競馬新聞を広げてどうでもいいことを言ってるんだらう」と思っていたら、自分が大人になったら、同じことをやっている。

どうしてこうなっちゃったのかというのをたまたま考えることがありますね（笑）。

そういう親父さんたちを見てきたので、世間に出たときも、全く何にも驚

〈プロフィール〉

昭和37(1962)年	神戸市兵庫区生まれ 甲陽学院高校卒
61(1986)年	筑波大学比較文化学類卒 産経新聞社入社、新潟支局配属
平成元(1989)年	政治部配属 首相官邸、 自民党などを担当
19(2007)年	政治部長
23(2011)年	東京本社編集長
27(2015)年	東京本社編集局長
30(2018)年	論説委員長
令和 4(2022)年	産経新聞上席論説委員兼 特別記者兼コラムニスト

くことはなかったです。人間には表裏があるということと、大人になったら無駄な酒を飲んで、くだらない話をして、競馬をするなりして辛い浮世を過ごしているのを知りました。酒屋での経験はとても良い社会勉強になりました。今はもう感謝しませんがね。このような経験は、「人の言ったことを容易に信用しない」という記者の商売に繋がっています。

〜ソウルフードは「きつねうどん」〜

もう1つ忘れられないのは、五宮町のきつねうどん。お店が忙しい時は、よく配達してもらい、食べていました。このきつねうどんが、本当に上手かったですね。関東ではなかなか味わえません。

だしと甘い汁を吸ったきつね。そしてやわらかいうどん。死ぬ前にもう一度神戸のきつねうどんを食って死にたいと思います。

「列車好きの原点は神戸駅」

日本全国津々浦々たくさん駅がありますが、やっぱり神戸駅がまだに一番好きですね。

神戸駅の1番線は、私の鉄道の記憶の原点です。昔は寝台特急や急行など、数多く走っていましたからね。

その寝台列車に乗ったことが「令和阿房列車」に繋がっています。昔の列車って本当に味があつたと思いますね。だから今やっていることは、全部小学生の時の延長でしかない。記者も、鉄道もそうです。

私は、国鉄に入って国鉄改革をしようと思っていたのですが、大学卒業時は、丁度国鉄からJ.R.に民営化される時で、文系新卒の採用がゼロだったんですよ。

それでやむなく新聞記者をやっているということですかね。国鉄が民営化していなかったら、今頃は、国鉄の総裁になっていますよ（笑）。

「新聞記者として」

小学生の時から新聞が好きでした。神戸新聞も好きですが、一番自分に合っているのが産経新聞だったので、産経新聞社を選びました。



沖縄取材の合間に。忙中閑あり

また、大学のゼミの先生が産経新聞社で編集局長をされていた青木彰先生だったので、そのご縁もあって40年近くこの仕事を続けています。

昭和61年に産経新聞社へ入社後、新潟支局、整理部を経て、平成元年から政治部に配属となりました。

ちょうど竹下内閣が終わりを迎え、激動の時代でした。当時は休みなく働いていましたね。気がつけば、もう35年も政治報道に関わっています。

「仕事は楽しく」

好きなことをずっとしていたので、あまり深刻に考えた事はありませんが、若い方へお伝えするとすれば、「是非好きなことを仕事としてやって欲しい」ということです。好きなことが分からない人は、それが分かるまで遊んでいてもいいですが、できれば好きなこと

で生計が立つようになれば何とかなるもんだと思います。

「兵庫県はもっとアピールを」

兵庫県は、食べ物や工芸品など、一流のものが揃っていて、ポテンシャルは豊富にあります。売出し方が大人数です。

例えば龍野の醤油蔵など、売り出し方によってはよりメジャーになる可能性を秘めているので、もっとPRを上手くやってもらいたいですね。

それからやっぱり食ですね。明石の玉子焼きなんかは、たこ焼きよりずっとおいしいのですが、なかなか関東の人に浸透していません。

「これほどよいものが兵庫にはある」ということをアピールした方がいいです。アピールのしすぎでお客様が増えすぎるのは困りものですが。

「これからの夢や目標」

人生楽しみたいです。需要がある限りは、本も書いていきたいと思っています。おかげさまで「自民党崩壊」(ビジネス社)など単行本を6冊出し、田原総一朗さんの「朝まで生テレビ!」にもたびたび呼んでもらっています。もちろん、兵庫県にも何かお役に立てるようなことをしたいと思っています。

若い頃は考えたこともなかったのですが、還暦を過ぎるとふるさとの良いところが良く分かります。皆さんには是非一

度、兵庫県に来ていただきたいですね。そのためには、交通体系をもう少し整備してもらおうと行きやすくなります。兵庫県には沢山ローカル線があります。乗車しないと廃線になりかねない所も多いので、まずは地元の人に乗ってもらい、観光客を誘致するようなことを考えなければいけません。

「県人会の皆さまへ」

ポテンシャルはあるのにPRが不足して、ちょっとした工夫がないから、兵庫県のローカル線に乗りに行く人が少なくなっています。特に山陰線は絶景の路線なので、もっと活用したいです。

とてもフレンドリーな組織なので、兵庫県にゆかりのある人には是非一度顔を見せていただきたいです。かけがえない出会いや素敵な経験など、参加いただくと、とてもいいことがありますよ。

